

4K、VR 中継車が揃った「2016 NAB ショー」の「アウトドア・モバイル・メディア」

神谷 直亮

「2016 NAB ショー」に関しては、本誌 6月号、7月号ですでに触れたが、最後に、中央ホールと南ホールの間に設営された「アウトドア・モバイル・メディア」における展示内容についてレポートする。この特設会場には、毎年のように最先端の大型中継車、車載局、可搬局が集結し、業界動向を知る格好の場になる。

今年の特徴としてまず挙げられるのは、4Kに対応したコンパクトな中継車と仮想現実（VR）制作用の大型中継車が初めて登場した。

次いで、パイアサット、KaSat、O3b ネットワーク、インマルサットなど、Kaバンド衛星が世界的に普及してきたという現状を踏まえて、これらの衛星にアクセスする車載局や可搬局が増えた。

さらに、機動性を重視するマンパックスシステムや平面アンテナの出展が目立った。

4K中継車の初出展を飾ったのは、TV Pro Gear社（本社、カリフォルニア州グレンデール）だ。今回、同社が公開したのは、非常にコンパクトでかつ経済性を重視した「Flypak」と名付けた中継車である。車内を見せてもらったら、4Kモニターとオーディオミキサーを除いて、導入されているほとんどの機器がブラックマジックデ

ザイン社製であった。具体的には、ATEM 2 M/E 4Kスイッチャー、HyperDeck Studio 12G 4Kレコーダー、Smart VideoHub 4Kビデオ・ルーターなどが目についた。ちなみに、モニターはソニー製の55インチ4K LED、オーディオミキサーはBehringer製X32であった。

ブースのセールスマンに、アメリカでは何台の4K中継車が稼働しているのかと聞いてみたら「モバイルTVグループとNEPグループがすでに運用を始めていると聞いているが、何台所有しているかは分からない」との回答であった。

「NABショー」初のVR中継車を出展したのは、大型中継車や車載局の分野で30年の歴史を誇るガーリング&アソシエイツ（G&A）社である。顧客名を聞いてみたら「このスーパー・スタリオン型VRユニットを契約した相手は、カリフォルニア州ラグナビーチに本社を構えるNextVR社」と答えていた。車内を見せてもらったらNASCARスプリントカップ開幕戦「デイトナ500」のレースの様態を魚眼レンズで撮影した映像がソニーの4Kテレビで再生されていた。さらに、オキュラス・リフトやサムスン・ギアを使ったVR体験コーナーが設けられており、来場者の興味を引

くと同時に息抜きを提供していた。説明員によれば、「NextVR社は、FOXスポーツと契約して、各種スポーツイベントのVRライブストリーミングを請け負っている」という。

G&A社は、この他、NEP社向けのスーパー・シューター大型中継車、クラーク・プロダクション向けの側面拡張型スーパー・スタリオン超大型中継車を紹介した。

既述の2社以外に、今回ビデオ伝送を実現する車載局、可搬局を出展した代表的なメーカーとしては、AvLテクノロジーズ、サテライト・インフォメーション・サービス（SiS）、ジェネラル・ダイナミックス・サトコム・テクノロジー（GDサトコム）、コブハム・サトコム、オンコール・コミュニケーション（On Call）があげられる。

アメリカを代表するアンテナメーカーとして知られるAvLテクノロジーズは、C、X、Kuに加えてKaバンドにも対応できるクワッド型アンテナ・システムを出展して注目を集めた。直径は2.5mで、耐風圧性能を向上させた最新の製品という。同社は、もう一つの新製品として、Kaバンドを搭載したO3b周回衛星をシームレスに追尾できる直径2.4mの可搬局を紹介して、来場者の耳目を集めていた。



写真1 TV Pro Gear社は、非常にコンパクトで経済性を重視した4K中継車を初出展して注目を集めた。



写真2 ガーリング&アソシエイツ社は、NextVR社のVRライブ映像制作用大型中継車を紹介して話題を呼んだ。



写真3 AvLテクノロジーズ社は、O3bネットワーク社のKaバンド周回衛星をシームレスに追尾できる可搬局を披露した。



写真4 サテライト・インフォメーション・サービス社 (SiS) は、極限までコンパクト化を図ったという「ManPak60」や「ManPak 60T」を出展してPRに余念がなかった。(日本では、エーティコミュニケーションズ社が、販売を請け負っている)

イギリスを本拠とする SiS 社は、極限までコンパクト化を図った「ManPak60」「uPak 60」「ManPak 60T」(いずれもアンテナ直径 60cm) を揃えて PR に余念がなかった。3 種とも折り畳んで専用のリックサックに入れて持ち運びが可能で、アンテナの展開は 30 秒以内に実現できるとのことであった。念のため「ManPak60」の才数と重量を確認したら「折り畳んだ状態で、長さ 67、幅 35、高さ 29cm。重量は 12kg 以内」とのことであった。「uPak60」は、「ManPak60」より一回り大きい、「IATA 規格に基づいて 1 個の荷物として旅客機で運搬が可能。HDTV の伝送にも適している」と PR していた。さらに、ブースの販売担当者は、「日本では、すでにエーティコミュニケーションズ社に販売を委託しておりお馴染みのはず」と付け加えることを忘れなかった。

GD サトコム社 (ジェネラル・ダイナミックスの子会社) もマンパック型の可搬局を出展した。「C60MPT」「C100MPT」の 2 種があり「前者はアンテナ直径が 60cm で、後者は 1m の新製品。両者のもう 1 つの違いは、前者が 3 ピースで構成され、後者は 6 ピースに分解して持ち運ぶことが可能」という。これらの他に、同社は、「C140M」という型式の車載型アンテナシステム (直径、1.4m) も紹介していた。

デンマークのコーバム・サトコムは、インマルサット衛星に対応するポータブル型「エクスプロアラー 710」と車載型「エクスプロアラー 8100」を前面に押し出して出展した。L バンドに対応する「710」については、「2 台を組み合わせれば、1Mbps 以上のスピードでビデオ伝送ができる。すでに、デンマークのテレビ局、

TV2 が実用化している」とアピールしていた。「8100」に関しては、「アンテナ直径は 1m で、Ku バンドに加えて Ka バンドにも対応する新製品。Ka バンドについては、すでにパイアサット 1 衛星とインマルサット 5 衛星にアクセスした実績がある」と説明していた。

On Call 社は、AvL テクノロジーズ製のアンテナを搭載した車載局を出展し、これを使った「Quick SPOT」と「Secure Skies」と呼ばれる 2 種の衛星通信サービスを紹介した。共に IP ベースで「前者はイベントの映像伝送、後者は災害時の緊急サービスに特化している。特色は、スタジオや災害対策本部からリモコンでカメラやエンコーダのコントロールができる点にある」という。モニターも車体の側面に 2 台設置されており、現場からの送信映像とスタジオでの送出映像を確認できる。

「アウトドア・モバイル・メディア」の特設会場以外で注目を集めたのは、中央ホールに出展したフロントライン・コミュニケーションズとシーコム・サテライト・システムズ (C-COM) だ。

フロントライン・コミュニケーションズ社は、今回 ABC の「アイウィットネス ニュース」番組の取材用に製作したという車載局を紹介した。ブースの説明員によれば、同社初の「Ku バンドに加えて、Ka バンド衛星にも対応できる

タイプに仕上がっている」という。どの Ka バンド衛星を対象としているのかという質問には、「パイアサット 1 衛星」と答えていた。また、アンテナのメーカーについては、AvL テクノロジーズと語っていた。

カナダの C-COM 社は、「iNetVu FLY-75V」と「iNetVu980」を目玉にして出展した。前者は直径 75cm のアンテナを有する可搬局で、後者は直径 98cm の車載用アンテナ・システムである。同社は、これらの他にパイアサットの Ka バンドサービスをサポートする「iNetVu Ka-75V」システムの PR にも余念がなかった。これらの他に同社のブースでは、現在、鋭意開発中という「iNetVu On-The-Move」の PR が行われていた。高さを 33cm に抑えた平面アンテナで、パイアサット社の Ka バンド衛星に移動中でもアクセスできるのがメリットという。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

SWE DISH

SMART SNG
HD TV, 3D TV and IP OVER SATELLITE ECO OPERATION

スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

<http://www.bizsat.jp>

ニッサン新エルグランド4WD
5名定員

1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載
車高2.2m 以下 (地下駐車場可)

3.6 KVA NMG アイドリング運用
水圧エコ・ボール4m 搭載
強化サスペンション
国内 (100V) 海外 (240V) 対応
IPコントロール
ハイビジョン映像伝送
運転席からワンマンオペレーション

設計・製造・衛星通信のことなら
エーティコミュニケーションズ株式会社
TEL: 03-5772-9125

A Communications k.k.